

# 使用上の注意改訂のお知らせ

制酸剤，緩下剤

日本薬局方

## 酸化マグネシウム

重質酸化マグネシウム「ケンエー」

制酸剤，緩下剤

## 酸化マグネシウム細粒83%<sup>ケイ</sup>

(酸化マグネシウム製剤)

制酸剤，緩下剤

## 酸化マグネシウム錠250mg<sup>ケイ</sup>

## 酸化マグネシウム錠330mg<sup>ケイ</sup>

## 酸化マグネシウム錠500mg<sup>ケイ</sup>

(酸化マグネシウム製剤)

この度、標記製品につきまして「使用上の注意」を改訂致しましたのでお知らせ申し上げます。今後のご使用に際しましてご参照下さいますようお願い申し上げます。

なお、使用上の注意を改訂した製品がお手元に届くまでには、流通在庫の関係から若干の日数を必要と致しますので、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

また、2021年8月より添付文書が電子化されたことに伴い、一部の製品につきましては製品への添付文書の封入はございません。改訂後の添付文書は「PMDAホームページ」もしくは「添付文書閲覧アプリ（添文ナビ）」よりご参照くださいますようお願い申し上げます。

### ■改訂内容（自主改訂：波線部）

改訂後			改訂前		
<b>3. 相互作用</b> <b>併用注意（併用に注意すること）</b> 本剤は吸着作用、制酸作用等を有しているため、他の薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある。			<b>3. 相互作用</b> <b>併用注意（併用に注意すること）</b> 本剤は吸着作用、制酸作用等を有しているため、他の薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある。		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系抗生物質 (テトラサイクリン、ミノサイクリン等) ニューキノロン系抗菌剤 (シプロフロキサシン、トスフロキサシン等) ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤 (エチドロン酸二ナトリウム、リセドロン酸ナトリウム等) 抗ウイルス剤 (ラルテグラビル、エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル ジソプロキシル fumarate 酸塩等)	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	マグネシウムと難溶性のキレートを形成し、薬剤の吸収が阻害される。	テトラサイクリン系抗生物質 (テトラサイクリン、ミノサイクリン等) ニューキノロン系抗菌剤 (シプロフロキサシン、トスフロキサシン等) ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤 (エチドロン酸二ナトリウム、リセドロン酸ナトリウム等)	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	マグネシウムと難溶性のキレートを形成し、薬剤の吸収が阻害される。
セフジニル セフボドキシム プロキセチル ミコフェノール酸 モフェチル (削除) (削除) ペニシラミン		機序不明	セフジニル セフボドキシム プロキセチル ミコフェノール酸 モフェチル デラビルジン ザルシタビン ペニシラミン		機序不明
(省略)	(省略)		(省略)	(省略)	

(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)
(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)
(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)
<b>活性型ビタミンD<sub>3</sub>製剤</b> (アルファカルシドール、カルシトリオール等)	高マグネシウム血症を起こすおそれがある。	マグネシウムの消化管吸収及び腎尿細管からの再吸収が促進するためと考えられる。	<b>活性型ビタミンD<sub>3</sub>製剤</b> (アルファカルシドール、カルシトリオール)	高マグネシウム血症を起こすおそれがある。	マグネシウムの消化管吸収及び腎尿細管からの再吸収が促進するためと考えられる。
	大量の牛乳、カルシウム製剤	milk-alkali syndrome(高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等)があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。			
<b>リオシグアト</b>	本剤との併用によりリオシグアトの血中濃度が低下するおそれがある。 本剤はリオシグアト投与後1時間以上経過してから服用させること。	消化管内pHの上昇によりリオシグアトのバイオアベイラビリティが低下する。	(記載なし)		
<b>ロキサデュスタット</b> <b>バダデュスタット</b>	これらの薬剤と併用した場合、これらの薬剤の作用が減弱するおそれがある。	<b>機序不明</b>	(記載なし)		
<b>炭酸リチウム</b>	高マグネシウム血症を起こすおそれがある。	<b>機序不明</b>	(記載なし)		
<b>H<sub>2</sub>受容体拮抗薬</b> (ファモチジン、ラニチジン、ラファチジン等) <b>プロトンポンプインヒビター</b> (オメプラゾール、ランソプラゾール、エソメプラゾール等)	本剤の緩下作用が減弱するおそれがある。	胃内のpH上昇により本剤の溶解度が低下するためと考えられる。	(記載なし)		
(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)

■改訂理由

症例蓄積、文献報告に基づき、「相互作用」の項の改訂を致しました。

■今回の改訂内容につきましては医薬品安全対策情報（DSU）No.311に掲載される予定です。

■改訂された添付文書につきましては、下記ホームページに掲載しておりますので、併せてご参照いただきますようお願い申し上げます。

PMDAホームページ「医薬品に関する情報（<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>）」  
健栄製薬株式会社ホームページ「医療関係者様向けサイト（<https://www.kenei-pharm.com/medical/>）」